

# 日本共産党市会議員 NO. 594 6月議会報告

## 郷うこん修のホットライン

発行：日本共産党豊明市委員会 2019. 8. 22 連絡先：電話・FAX 97-0842  
ホームページ：「郷右近修」で検索 Eメール：qigja681@ybb.ne.jp



### 一般質問

## 豊明市から9条まもれのメッセージを

安倍首相は5月3日の憲法記念日の集会で「2020年に新しい憲法の施行を目指す」ことを示しました。改憲の狙いは9条に自衛隊を明記して紛争解決のための戦力から自衛隊を除外することにあります。日本が戦争をできる国へと変えさせるわけにはいかないと思い、6月議会で9条を守り平和な社会を推進することについて質問しました。

### ◆豊明市としての平和の取り組みは？

豊明市は平和教育や原爆被害のパネル展示など、平和行政に取り組んでいます。

市は平成23年に平和市長会議に参加し平和啓発活動を推進していること。原爆パネル展にはボードに「戦争のない世界を望む」「子どもたちに明るい未来を」など、平和を希望するメッセージを数多くいただいていると報告がありました。

### ◆自治体首長9条の会に参加しては

自治体の首長経験者によって平和憲法を守ろうという運動が提唱されています（9条の会）。先日、この運動を現役の首長にも広げて行きたいと呼びかけがありました。平和な社会の願いに応える為、9条の会に合流してはと質問しました。

市長は「9条を中心とした護憲の活動は尊重したい。地方自治推進の点で憲法改正の議論は必要かと思う。」と憲法への認識を示しながら、「国際紛争解決の手段として武力を使わないことは国民の想いだし、自分も同じ。9条の会へ合流する意向はないが、市民の平和を守る活動へ積極的に参加したい。」との答えでした。

豊明市は平和都市宣言を1985年に議決しており、この宣言に基づいた発言だとも思います。9条の会参加については引き続き求めていきます。

## ひまわりバスの台数をふやして！

4月からひまわりバスの路線は6年ぶりに大きく変更され、市の中心のみを周る3路線になりました。

従来の路線から外れた沓掛地域の病院との行き来に利用していた女性からは「体調が悪くなったときに病院にゆきづらくなった」という切実な意見、前後駅から文化会館に向かうルート沿線の方からは「大宮小の前ではなく三ツ谷を通った方が利用者が多いのでは」という意見もあります。同時に大根の方からは「前後駅には行きやすくなった」という意見もありました。

これまでひまわりバスの路線を変える度に賛否の意見が両方ありましたが、住民の潜在的なニーズに対しバスの台数が少なすぎて、ある要望にこたえると他の要望には応えられなくなっているのではないかと、日進の7台や東郷の4台と比べても豊明の3台は少ない。

バスの台数をまず増やすことから始めてはどうかと聞きました。

市は「高齢化が進み、きめ細やかな路線整備を期待する声もあるが、全ての要望に応えるのは難しい。チョイそこの運航でひまわりバスを補完し公共交通の充実を図っている。民間のバスも非常に充実しているのでひまわりバスの増台は考えていない」と残念な答弁でした。



## より効果のある「ごみ」の減量を

東部知多衛生組合では新型焼却炉の運営が始まっていますが、埋めて地の容量も限られているので、市は家庭系可燃ごみの2割削減を打ち出しつつ、実現できなかった際の収集袋有料化を検討するとしています。

ところで日野市ではごみ袋の有料化を実施したところ、一時的に可燃ごみの量が減りましたが、その後頭打ちになったそうです。

一方、立川、国分寺市では事業系ごみの分別を徹底してごみの削減を実現（20%ほど）しているため、豊明市でも事業者に対し分別などの指導を進めてはどうかと質問しました。

市の回答は商店、飲食店など中心に食品ロスを削減する取り組みを進めながら、事業ごみについてはクリーンセンターで抜き打ちの成分調査をしているとのことでした。

豊明市の場合事業ごみの割合が15%ほどで上記の自治体に比べると低い為、減量策の中心が家庭係ごみになるという事情があるようです。市が言う通り、ごみ減量に近道はないというのが実態だと思いますので、尚更ごみ袋の有料化などでなく地道な啓発と市民の運動で可燃ごみの削減を進めるべきではないでしょうか。